

# 国際教養大 教員狭き門

来年4月に開学予定の国際教養大学の教員募集で、15人の公募枠に対し44カ国から延べ567人の応募者が殺到し、競争率は37・8倍にのぼっていることが分かった。応募者の6割近くを外国人が占めている。

県によると、同大の予定教員数は39人。そのうち24人は大学創設準備委員らによる推薦などで、公募枠は残り15人。「英語」「ビジネス」「日本語」

## 公募枠15人に延べ567人

研究」など全10分野のうち「東アジア研究」「日本語」を除く8分野で公募した。

募集期間は昨年11月下旬から今月10日まで。高等教育の専門誌やホームページなど、外国メディアを積極的に活用したという。複数分野への応募者がいたため、実数は446人だった。国別では、187人の日本に次ぎ、アメリカが130人、カナダが21人など、北

## 外国人 6割近く占める

米・南米が3割強を占めた。以下、インドが11人、イギリスが8人、韓国が6人など。アフリカや旧ソ連地域、中東、豪州などからも応募があった。推薦、公募とも、来月中旬には採用者が決まる見込み。県国際系大学設置準備室の小松正昭室長は「予想以上の応募数。プログラムの新しさや、教員の任期制など、革新的な面が評価されたようだ」と話していた。